（毎日一回夕刊）

磐城新聞

大祭第一第三日曜休刊
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（二行平錢指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　磐城新聞社　福島縣平町田町拾六　電話五六四番

發動機關講習會

來る十四日より二週間

水産試驗場で

小名濱町水産試驗場では近來各濱に於ける船体が近年漸次大型になるのと機關馬力の增大とにより縣下一般に海技免許狀受有者が不足を來しつゝあるのに鑑みその補充の二月十四日から三週間、大日本機關士會から中村一撤氏を招聘せしめ發動機關講習會を開會することになりこれが終了後三月七日同場に於て仙臺逓信局海務部より係官の出張を乞ひ船職員試驗を執行することになつた受驗申込み四十五名である

礦業税移管

運動繼續

町村長が奔走

礦業税地方移讓問題關係石城郡内郷村では昨年十一月常磐炭礦關係町村に檄を飛ばして猛運動を起し各町村長等が上京九州、北海道方面炭礦關係町村長と共に主務省に對し讓租運動をした事は當時既報の如くだがその結果礦業税は三分ノ一を移讓することに決定したが果して今議會に通過するか否かが疑問とされて來ので前記關係町村では共同戰線を張り讓租通過の促進運動を起す事となり近く内郷村では村長、村議一同が上京すべく目下準備中である

平町地方に

風邪流行

子供病に注意

平町地方は昨今雨量少なく風邪その他傳染病が流行してゐるが三歳から六歳までの子供が風邪に犯されても家庭で風邪位だから大した事あるまいと放任して罹くとデフテリヤに犯されるといつて居る徴候としては最初は犬が吠る樣なせきをする次ぎに咽喉を見ると白い薬膜と云ふものが附着して居るその時直に醫師の手當を受ければさしたる事はないがそうならずに居ると可愛子供の一命を失ふ樣なことになるから子供もつ母親はこんな樣節に十分注意すべきであると語つて居る

勿來火防宣傳

講習會も開く

石城郡勿來消防組では廿八九兩日赤津組頭以下役員總出動して附近部落から窪田町を自動車にて約三千枚のビラをまいて火防宣傳を行ひ廿九日夜は小學校にたいして赤津組頭の火防講演會を開いた

今度こそ解決する

大浦消防紛擾

平山課長が來郡して

きのう兩者會見

石城郡大浦村字大森の消防組紛擾事件は消防組員の任免が畧長固有の權限に屬しその結果礦業税は三分ノ一を移讓することに決定したが果して今議會に通過しないとする水谷署長の態度儼然としておかすべからざるものあつたゝめ容易に解期の圓滿解決を見るに至らず時節柄前途の成り行き制肘干渉を受くべきものとして注目されてゐたが問題は最近に至つて前記署長の方針とこれを氷炭相容れざる石城民政黨幹部との感情とその正面衝突が一しほ露骨となり地方のため一日もこの儘に放置する事が出來ぬ情勢となつたので平山保安課長は二十九日夜四倉町に至り水谷署長及最初よりこれ憂慮されてゐたものと觀測される

愈々本工事に着手

四月から繰業開始

片倉の代理經營で

磐城製絲進渉

資本金二百萬圓で平町に設立された片倉磐城製糸株式會社では昨年末から工場敷地の地均し工事をなしつゝあつたが、此程大体終了し三週間程で進渉すれば最初の豫定通り春繭から取引を開始し四月頃から繰業をはじめるに至るものと觀測されてゐる

此の會社の重役は既報の如く決定を見たが、經營の一切については斯業の權威である片倉組に委任する事となつてゐる形式は地方株主の委任に依り片倉組が經營すると言ふ事になるのであるが此の片倉組の委任經營が却つて多數株主の信用を博してゐる模樣である

明の日　吉の日　凶の日

舊暦　二月二十日　新暦　二月一日

民謡漫談（三）

抱夢生

西洋の戀は全く直線的で男性的である、而して事業的であると思ふ、萬難を排するは無論の事如何なる危險を冒しても如何なる犧牲を拂つても逐わんと努力する、決して中途で止めるのがない、此の雄々しい奮闘に同情し其熱誠に彼等は涙を注ぐのであるまいか、日本の戀は之と反對に臆病極まるものだ、駄目だと思へば其れ切り何等の技巧も努力も無く直ぐ泣き寝入して戀患ひとなつたり、駄けなしたり、海一つ越に命なし（石になつたり、少しの強いもので、蛇になる位か關の山である。寒むさうに尻を端負ひ（駢落ちなり）たり未來で一緒になりませうなどゝ情死する實に遠慮深い戀である意氣地の無い戀であると笑ふかも知れぬが此の弱々しい女性的の戀は淨瑠璃を生み追分を生んだのだ。

昭和の今日隨分陽々しい戀、女性も見ねばやうだが本だ〳〵歐米の其れに比較すれば初ぶな所がある。當方に惚れましたと云はれるよりも默つて色眼をされた方が可愛いではなからうか言ひ得ない所に無限憐れがあり、行ひ得ぬ所に無限の情趣があると思ふ、斯うふ洋の東西の國民性や氣質は音樂の上にも現はれてゐるのは當然の事であると思ふ。

我等の生活を離れて藝術がある筈はないのに極まつてゐるのに音樂家は往々我等の生活は和服と疊が主で洋服は職業の爲めである事を忘れて居るから困ると思ふつまり國民性を度外視してゐるから當然鑑賞すべきものを鑑賞せず難しい判らぬものを無理にも理屈をつけて鑑賞しやうとするが見たこともない若者が何時の間にか難し旋律有してゐる民謡や俗曲を覺えてゐるのは一體どんな譯かするにはまだ〳〵距離がある思ふ、裁縫先生が生徒にはメートル法問題を出して置きながら御自分は鯨尺で仕事をしてゐる世の中だから仕方もあるまい

文部省認定の童謡一つを一時間も三時間も掛つても覚えぬ兒童や音楽のドレミファも錆にやれない兒童でも何時の間にかジャズの淺卓行進曲や道頃堀行進曲を覺えて唱つて歩く、ルユーアンゲンもコンコニーも見たこともない若者が何時の間にか難し旋律有してゐる民謡や俗曲を覺えてゐるのは一體どんな譯か

幕末魅惑狂恋物語

（148）

渡邊默禪作
宮野歌春譯

勘太郎はうつとしだが「越前屋と云へばお母さんの叔父さんに當る人だがそこへ手紙を持つて行くのかい」

「ばい」

「清松ちよつとその手紙を見せろ」

と狀箱を取つて紐を解いた、中の一封は番頭富松の直筆で――直々開封――と書に傍書をしてある、勘太郎は不審の眉をよせたが思ひ切つてビリッと封を切る

「あッ！大變だ若旦那、――何でもなさるんで」

と清松は眼を丸くした

「いや心配するな、お前に迷惑はかけないよ」と勘太郎はその手紙をひらいて讀み下すと

前略御免豫て御配慮相かけ申候一件、愈々芽出度く相納まり申すべき樣子にて今頃どんから憎まれる位なら

へ行くんだ」

「えゝ！この店に……だつてあなた勘當された身ちやあるまいし、死水を取らいでなられようか（ふ）」

「清松來い！」

ふう〳〵と駆け出したので清松も煙に捲かれながらも追〳〵と逆戻りをした清松は少年ながらも主人思ひの俗悧者であつた、以前可愛がられた若旦那が今し見るかげもなく零落して親の死目にさえも逢はれぬ程の情けない境遇になるのを目撃しては同情せずにはゐられなかつた、封を切らぬ先ならともかく切られぬ先ならともかく切られた上は自分も同罪どつちにしても番頭どんから憎まれる位なら、いつそなにもかも打ちけて此の哀れな人をたすけようと決心した、で途すがら見聞したこと――いつ二人が落ち合つて怪しい素ぶりをした時に――直々開封――

なられるけね、さあ退け、歸りやがれ、何退かねね、牛意氣なことを吐すとうぬ、かうしてやるぞ！」

廣告

スター好
ナフトール
着尺
新柄
モス着尺
新柄
ホグシ銘仙
其の外
色々取揃申候
平
龜田屋
電話五七

謹告

私儀磐城自動車商會に勤務中は公私多大の御愛顧を戴きたり候段、今回同商會を辭し平町に於て特に優秀車を使用し獨立開業を致す事と相成り候間今後共引續き御愛顧の程伏して懇願仕り候、營業所其の他は不日逐つて御知らせ申すべく略儀紙上を以て御挨拶まで如斯に御座候
昭和四年一月三十日
平町材木町
澤正路

當商會外交主任澤正路氏今回自動車業獨立營業開始の運びと相成り當商會を退く事と相成り候段謹告候也
合資會社　磐城自動車商會

田町睦會聯合

歳末福引大賣出し
新二月一日ヨリ七日間
お買上金高
金一壹圓毎ニ
福引券一枚進呈
景品種目
特等（別製）桐箪笥
一等　桐タンス
二等（九升樽）醤油
三等　メリヤスシャツ
四等　桐下駄
五等以下七等マデ實用品豊富ですゼヒに買上げ下さい
引換場所　福住旅館

内科
小兒科其他一般（入院隨時）
前田醫院
植田町本町（電話一二四番）
前田清美
（看護婦見習優遇募集）

外科
婦人科
X光線科
内科
外科一般
耳鼻科
花柳科
婦人科
産科
赤心堂病院
平町田町（電四七五）

ヒゲタ醤油
宮内省御用達
丸升樽印
ニリットル瓶詰
銚子醤油株式會社
平町田町
特約店　廣瀬支店
電話五四番

痔の最高内服薬
ダイサン錠
鼻のクスリ
チクノール錠
平町五丁目角
山野邊藥局

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

平町田町
高久病院
電話五一三番

二月一日（舊廿二日）ヨリ五日間
歳暮福引大賣出し
御仕着と御歳暮の御用は是非三井へ
御祝儀物御仕度品は豊富取揃へて
あります
格安反物大見切物（三割安より半額）
吉凶御引物は特に廉賣奉仕致します
御贈答ニハ三井ノ商品券を
御買上金
五圓毎ニ福引券呈上
ショール新柄金一圓五十錢ヨリ
足袋特賣（白キャラコ十錢　黒朱子廿五錢　絹天女物二十錢）
主婦の友三秀會特選
新柄帶側陳列
新館二階
磐城平
三井吳服店
電話三八　七五一番

掉尾の大奉仕
特等　桐タンス
福一等　高貴織
引二等　新銘仙
三等　フトン縞
景四等　羽織紐
品五等　名入手拭
容器ナシ

池知技師の一行がけふ精細な調査

地下採掘可否基本の伏見町長は樂觀

郡内の某大炭礦が平町の地下採掘を當局に出願した旨一と度び宣傳されるや郡町ちに態度を決定するものと此れに反對すべく伏見町長以下の陳情員は過般來屢々出仙鑛山監督局に大西局長を訪ひ猛烈な反對運動を續けて來たが其の後鑛山監督局では出願を許可すべきや不許可となすべきやに就いて態度を鮮明にしなかつたので平町當局ではまた〳〵猛烈な反對陳情を行ふべく計劃準備を進めてゐた折柄今廿一日突如仙臺鑛山監督局の鑛務監督官池知技師が來平伏見町長の案内に依り平町の市街地其の他全町區内に亘つて地質構造等の精細な調査を遂げ本局に引上げたが池知技師は許可不許可に對しては一言も發せず調査にもとづいて歸廳後直ちに態度を決定するものと觀られ今回の調査は平町將來に取つて頗る重大な結果を齎す事となるので調査内容と其の成行は各方面から注目もされてゐる右に就き伏見町長は

「許可か不許可かは未だ判明しませんが兎に角今度の地質構造調査は過般來平町が續けて來た例の反對運動が奏功した結果であるから許可になるやうな事は先ないものと想はれるが然し萬一の場合を考慮して徹底的に反對運動を續ける考へです」

云々

底に底が付いて家主の氣苦勞

建家を賣つて土地貸しに平地方の新傾向

平町をはじめ石城郡内各町村にかけた第三種税及營業收益税の納税者中貸家貸地を有するためこれが課税を受けつゝあるものは最近の調査により人員約六百七十名その總收入年額貸地三萬九千九百三十五圓で前年二萬四千七百三十二圓に比べ一躍一萬五千二百三圓即ち六割一分四厘の急激なる増加を示したは從來の借家人が新たに土地を借受け自力或は他に何等の方法を講じて家屋を新築した者が續出したる結果と見るべく更に貸家の方は直にこれ

折角得たる鑛區の採掘權を放棄

關係當局も手を燒く石城の鑛山業者

石城郡下には各炭礦を初め鑛山業者が競つて鑛區の採掘權を得る爲め許可出願をなし今や郡下到る所

手の屆かざる所なきまに至つた然るに昨今監督局に對し此鑛業權の放棄を申込むものが約三割に及んだと云ふので當局は大いにあて餘して居るの有顏である元來鑛區の出願に際しては試掘なれば五十圓採掘なれば七十五圓の印紙を貼用すべくそれ〳〵貼用して居るが許可決定と同時に今度は登録税として試掘は百圓採掘は二百圓を納入する事になつて居るが此の税を納入する能力なきものか出願條件が薄弱な爲め於て私は消防組國の規律訓練を主として更に亦入格向上品性の陶冶を理想とし消防器五訓を自製し訓示して居ります、曰く義勇奉公汝の名は消防なり、曰く社會の公益汝の名は消防なり、曰く敢爲義俠汝の名は消防なり、曰く相互扶助汝の名は消防なり、曰く敢爲義俠汝の名は消防なり以上であります、この精神を以て團體生活とするにあらざれば意義ある消防となす事は出來得ないと考へる、昨年の

磐城炭礦會は來る二月十二日同社に臨時總會を開き取締役二名增員選擧の件を附議する筈であるが右は淺野以上の成績を收めてゐるが從來入所期が一月であつた小學校卒業期と相當距離あるので文部省はこれを四月に改正すること軍部主務省と協議決定正式に本縣に伴ふ施行細則の改正を二十九日縣令告示したその結果入所者は前年十一月末日に於て十六歳以上十七歳未滿の者を入所せしめてゐたが本年からはその年三月末日に於て十六歳以上十七歳未滿の者を入所せしめると改正年令の點は何等變更されない。

盜むだ馬一頭を交換して賣却

惡性の馬喰關内友吉平署餘罪取調中

石城郡大浦村大字と仁田字横川居住關内友吉(五九)は窃盜、詐欺、賭博前科十二犯の肩書きを持つ曲者であるが去る廿七日平町字仲町大竹清治方厩につないで置き時價三十二圓の牡馬を窃取し同日午前十一時これを平窪村大字上中窪字富岡牛馬商鈴木米次郎の世話にて同町上平窪字原田薄葉卯之雄方より時價五十圓の馬と奸言を以つて交換し更に同馬を平町堤内牛馬商竹島清次郎方に六十圓にて賣却した事平署に發覺友吉を引致し

四月に繰り上げた青訓生の入所期

愈々今年から始まる郡下青訓所實行

石城郡下の各町村では青年訓練所開所以來何れも豫期以上の成績を收めてゐるが從來入所期を四月と改正これに伴ふ施行細則の改正を二十九日縣令告示したその結果入所者は前年十一月末日に於て十六歳以上十七歳未滿の者を入所せしめてゐたが本年からはその年三月末日に於て十六歳以上十七歳未滿の者を入所せしめると改正年令の點は何等變更されない。

消防の話 (三)

平消防組頭　井上茂作

勿論是には原因多々ありませう、外國の建築物は概ね不燃燒物でありますが我國の家屋は木造建築多く所謂燃燒物の建物であります故に一とたび出火すれば火途遂遠と謂はねばならぬ。元丈で止まる火災は稀でありつて多くは隣接の屋に延燒する、萬一風力の强き場合であれば忽ち數百戸若くは數千戸を烏有とし焦熱地獄の悲慘事を往々惹起して住むに家なく食するに糧なき深刻なる慘狀は毎年繰返されて不安の途を辿りつゝあるのであります、併しながら建築物を改造する事は一朝一夕行はれない、國民經濟の許さゞる處であるから局部的にはありとしても前途遠遠と謂はねばならぬ。然らば火災度數を減ずる方法如何と云へば論ずるまもなく消防設備を要求する外ないのであります、尤も消防設備と申しましても決して一樣ではないのでありまして假令ば大都市、中都市、農村と云ふよう四圍の環境、家屋の密度、人口、經濟等を考慮し計畫を樹立せなければなりません亦都市でありましても上水道の敷設しなき處と上水道の設けなきやうに農村に於ても水利道路等を考慮し是に適應したる機械器具の設備をなさねばならぬ。少なくとも人家連互したる場所に於ては屋上の制限即ち屋根を不燃燒物に改造する事は大急務なりと考へる。併し消防器具のみ完全致しましても是を活用する處の清防組員が一致協力克く訓練されて居なければ消防の機能と威力を發揮することは不可能であります、茲に士中村復一郎氏は消防手の

兵事々務研究

植田署管内兵事々務研究會は廿九日午後一時より植田署に開催召集その他諸般事務に就き研究を遂げ協議事項に移つたが軍事思想普及のため三月三日植田小學校に軍人講話會を開く外會員に對し五十圓以内の豫算で記念品を贈ると共に二月下旬管内よりの在隊者に慰問狀を發送する事を決議午後四時散會した

遊客一萬五千人

遊興金十萬圓を下らぬ鎌田遊廊の去年

平町鎌田町遊廊には現在六軒の俗に云ふ女郎屋が三十人の娼妓を抱え營業を續けてゐるが此の遊廊昨年中の營業振に就いて平署の調査した處によれば去年の元日から大晦日の晩まで三百六十五日を通じて遊廊で遊んだ客の總數は驚く莫れ一萬四千四百八十三人ザット一日平均約四十人の浮れ男が登樓してゐた計算で不景氣風もなんのその流石に商賣柄だけ相當の利益を

のは一月で千五百七十五人次ぎは花時の四月が千四百二十三人以下九月、八月、二月、五月の順で一番少いのは俗に霜枯時と言はれてゐる十一月が千四十六人で日が男一萬四千五百人が散財した遊興費の警察署に屆出た分だけで四萬四千五百廿一圓と言ふ巨額に達してゐるが此れは本眞の表面だけで其の實は約十萬圓を突破してゐる事に確實とゐるから此の道ばかりは流石々々と肯かれる

松本夫人病む

中窪村松本德一氏令夫人は二十五日來風邪引き籠り中の處肺炎を併發し酒井主治醫の手により自宅に於て治療中昨日來餘程少注意を要する狀態にあるとの他の協議をなした

濱三郡木炭

濱三郡木炭同業組合では今年一日午前十時から舊石城郡役所に常任理事會を開き四年度の豫算及線會日時其

あるが損害約二千圓位い發火の原因は殘火の不始末からとも言はれ或は放火ではないかとも觀られてゐる

敷地坪一圓の差

地主は五圓當局は四圓役場新築決定難

平町役場の新築案は明年度豫算に計上される事に決定してゐるが新築豫算の財源に付き現役場敷地、水道部敷地、元平陽女學校跡敷地約一千坪を買却してゐるものとなり新築委員が賣買の交渉を進めた結果坪三十圓見當にて大体賣却する事に決定をみたので、新設敷地の買收交渉を開始した豫定敷地は平町字南町裏の田市を埋立てる計畫であるが當局では坪四圓見當で買收する豫算で交渉をなしてゐるのであるが同方部は平町發展上將來一番繁華になる可

自動車が便所に入御

石城郡内郷村磐城炭礦貨物自動車運轉手石田建治(二四)は廿九日午後三時半頃同村大字御厩字久世原地内國道を疾走中後よりきた自動車を踏んで横路内に車輪を踏入れ繰從不能となり同地内鈴木松太郎方便所に激突した爲便所はメチャ〳〵に破壊した

一日一人

大和田豐吉氏

祐賢學舍を經營する忙がしいうちに讀書に著作に熱心な文學の研究に餘念のない大和田先生に「川柳の効用」を伺ふと「現代の文學はあまりに當面の時事を無視してゐる時代そのものを摑むことにおこたり勝ちである。この弊を補ひ得るものは屬り川柳である」と信ずる。吾々は日本の文學が、もつと〳〵生活そのものの時代そのものと密接なる關係を有するものにすることを希望する。且つ、いつまでも自己陶醉や自己の環境のみに入浸つてゐることばかりしてゐるとをやめてもつと〳〵社會的國家的の廣い大きな舞臺に飛び出すことも大に必要であると思ふ、川柳はさういよ意味からしつても將來大に發展さすべき地位にある吾々はこの際斯界の天才の出現を望む

日掛金を融通致します
但シ確實ナル連帶者ヲ要ス
平町三丁目三十八番地
合資會社　常磐興信所

◎躍進！
新發賣の品質優秀なる
イワキ石鹼
半打入　五拾錢
一月三十一日より向ふ一週間は聯合賣出し中景付二箱に對し福引券を差上げます
四丁目
ツルヤ商店
電話百四十番

舊年末謝恩最終特別興行
◆二月一日より◆
大日活會社超々大作映畫
主演　山本嘉一　河部五郎　大河内傳次郎
續水戸黄門　二十卷　全部上映
備中松山の城を跡に再び旅に向へる水府公……六十余州にあます所なき草鞋のうゑとは金々續廿卷により全てを物語り盡さる！
松竹キネマ獨占大悲曲　蒲田名子役全野出演
高尾光子、藤田房子、小櫻葉子、其他
天使の罪
純眞にも愛らしき少女達の寂しい……それは世にも哀れな一つの生を描いたものが……本篇じまる
普通席金十錢　一等三〇　特等五〇
平館

福引景品付
四丁目聯合大賣出し
期日　舊十二月廿一日(一月卅一日)より舊十二月廿八日(二月七日)まで　八日間
引換場所　四丁目和泉屋旅館
景品種目　桐簞笥、反物、其他豊富
御買上高　一圓毎に福引券一枚呈上

製造家より需要家へ！
儲けなしの原價提供
論より證據
保險付　掛時計　三圓五〇錢
保險付　目覺時計　一圓九〇錢
外に腕時計と洋品各種大投賣
大谷時計病院
平三一　電一九番